

1 「本質的な問い」による単元構想について

本校区では、【英語・外国語活動部会】【協働学習部会】【自己有用感育成部会】の3部会に分かれ研究を進めている。それぞれ「英語科」「社会科」「保健体育科」の研究授業を行った。

- 「単元授業設計シート」を作成し、1時間目の学習で単元を貫く問い「なぜ、ペリーは日本へ来航し、日本を開国させたのか」及び、単元の授業の流れを生徒と共有し、見通しをもたせるようにした。さらに、毎時間授業のまとめの中で、生徒に本時の学習が単元を貫く問いにどのように関わり、結び付いていくのかを考えさせ、「単元授業設計シート」に記入させた。（社会科）

2 単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能（知識・技能）】

- 北中タイムと5ラウンドシステムを取り入れたパターン化された授業により、見通しのもてる授業となり、教科書本文を繰り返し聞いたり読んだりすることで、how toなどの言語材料を使った文構造を理解することができた。（英語科）

- 英語に苦手意識をもつ生徒や既習事項の定着が不十分な生徒のために、既習事項を振り返ることができるようなヒントカードなどの支援をするべきであった。（英語科）

【思考・判断・表現（コミュニケーション力）】

【英語・外国語活動部会】では、「積極的にコミュニケーションを図る」こと、【協働学習部会】では、「自分の考えを深化・統合する」ことを視点として研究を進めている。

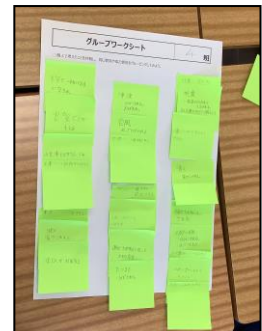
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。83.5%（全国76.9%）
- 友だちと協力するのは楽しい。96.9%（全国95.5%）
- 話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。83.4%（全国78.7%）

【令和4年度全国学力・学習状況調査 生徒質問紙】

- 単元を通して、個人で考える際、付箋の活用により生徒一人一人が自分の考えをもつことができ、その後のペアやグループでの話し合いで、考えを深めることができた。（社会科・保健体育科）

- 生徒同士がやり取りをする際、教え合いを通して、多様な英語表現に触れることができ、やり取りを継続することにつながった。（英語科）。

- 考えをまとめたり、まとめたことを発表したりすることが苦手な生徒がいる。グルーピングをする際、「被害」と「ケガ」の視点に分ける（保健体育科）、「根拠」をより明確にした発表の仕方をする（社会科）などの指導をする必要があった。



【主体的に学習に取り組む態度（自らへの自信）】

【自己有用感育成部会】では、「自分のよさや価値に気付く」ことを視点として研究を進めている。

- 自分には、よいところがあると思う。85.9%（全国78.5%）

【令和4年度全国学力・学習状況調査・生徒質問紙】

- 毎時間の導入で、考えるためのヒントを出すことで、生徒自ら課題をもち、課題の解決に向けて、主体的に学習に取り組むことができた。（保健体育科）

- 読んだり話したりする活動に対する意欲を高めるためにも、言語活動の目的意識、相手意識をより明確にする必要がある。（英語科）

3 「デジタル機器」の活用

- ロイロノートで写真や読み物資料を配付することで、時間短縮することができ、その後の話し合いの時間をしっかり確保することができた。（社会科）

- 翻訳機能やデジタル教科書を活用することで、効率的に学習を進めることにつながった。（英語科）

- タブレットを活用するか、板書に整理するか、どちらが効果的かを検討する必要がある。